

「喜々津っ子の心を見つめる」教育週間 ～16日まで～

10月12日から始まった「喜々津っ子の心を見つめる」教育週間では、平日にもかかわらず、たくさんの保護者の皆様に子どもたちの様子を見に来ていただいています。ありがとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方をお招きしたり、一か所に大勢が集まったりする活動をやめ、こじんまりと教育週間に取り組んでいます。

初日は、全校朝会（校内放送）で校長が話をしました。以下にその一部を掲載します。

今日から、「喜々津っ子の心を見つめる教育週間」が始まります。なぜ教育週間が毎年行われるかは6月の全校朝会で話しましたが、かつて長崎県内で、子どもが子どもの命を奪う痛ましい事件が続けて起きたからです。その後、「命を大切にす心や思いやりの心を育て、みんなで見守ろう」という目的で、授業などが行われるようになりました。

そこで今から、校長先生がミニミニ授業をします。テーマは『人を笑顔にする算数』です。

2年生はこれからかけ算、4年生は、たし算・ひき算・かけ算・わり算の混ざった計算を勉強します。この時に使う+、-、×、÷は、数を計算するのに必要なものですが、実は人と人の間にも大切なものです。では、教えますからよく聞いてください。

+（たす）は、たすけ合う

-（ひく）は、ひき受ける

×（かける）は、声をかける

÷（わる）は、わけ合う

これが、人を笑顔にする算数、「思いやり算」です。

これから4年生は「計算のきまり」についても勉強すると思いますが、その中で、かけ算やわり算は、たし算やひき算より先に計算するというきまりがあります。でも、思いやり算には、「助け合う」より「声をかける」を先にするというきまりはありません。どこからやっても正解です。

困っている友だちがいれば、「たすけ合い」、手助けを快く「ひき受け」、よく声を「かけ合い」、喜びも悲しみも「わけ合う」。そんな、人を笑顔にする「思いやり算」をみんなもぜひ実践してみてください。



13・14日は、低・中学年の道徳科の授業や学級集会を行いました。明日16日は、高学年の授業と修学旅行や宿泊学習の説明会も行います。この期間に限らず、今後も縊がかりで子どもをしっかり見つめ、思いやりのある豊かな心を育てていきたいと思っています。

先生たちも「勉学の秋」です！

前号で、「スポーツの秋の運動会が終わり、次ががんばってほしいのは勉学の秋です」と述べましたが、先生たちもそれを推し進めようとがんばっています。

本校は「自ら学び、考え、表現し合う子どもの育成」という主題のもと、子どもが「できた」と実感する算数科の授業について研修をしています。そのために欠かせないのが、教員同士で授業を見せ合う研究授業です。9月下旬から研究授業が始まり、今週も5年生の担任が授業を行いました。

授業の後には必ず、学習のめあてやまとめの有効性、子どもの考えを深める教師の投げかけなどを論議する会をします。これにより、さまざまな課題に気付くことができ、授業の質の改善につながっています。今年度は、算数の知識・技能だけでなく、子ども同士の「学び合い」を充実させることで、思考力や表現力を高めようとしています。そして、各教員が研修会での「学び合い」によって得られた「授業のヒント」を実践することで、子どもたちの更なる学力の向上を目指しています。

